

文久四年二月七日より文久四年二月八日まで

P8311084 right

見受の処にては惣躰軒続の町にて、在町の別尺分らず、尤城下の本町の通行せざるとも、其他(国分町泊)の様子は白石宿に劣れり、勿論戸口は右宿の倍数より多かるべし、第四時国分町旅宿へ着

広屋なり、従者一同へ夫々賀銀を遣す、領主より使者として馬上役某さし越、旅中見舞として菓子一大筐を贈らる、従者に分与す、産物、仙台平(絹織物の袴地)、扶桑木細工(仙台)埋もれ木細工、五色芋、□□織打紐、

八日 卯 陰午下漸に晴 朝四十一度(摂氏五度) 昼四十五度(摂氏七度)

領主より贈り物の儀に付清作来る、躰□□左衛門儀をも兼言きこ(かねごと)せり、右序道中筋景況しらべ騎□□

方躰□□外三人にて談□申談、周助面顔腫れ物兎角平□□依つて聞る、第六字時前出立、七に北町小休大曲村小休み途中、黒川郡

膏薬二貝を あたえられし申し聞る、第六時前出立、七に北町小休、大曲村小休、途中黒川郡(吉岡休) 大庄屋某出向ひ付添ふ、戸宮村小休第十二時過吉岡駅、午休所へ着、代官守屋□□義是迄、箱館奉行付添いたし節も面会を申し面会に付同様の振合い願い度段申し出る第一時過ぎ出立同所より駒場までの間、山岳□□として陟(のぼ)りては降りれば登陟降、実に暇あらず、駒場

野立途中に志和郡(岩手県紫波郡) 大庄屋出迎付添出迎比よりも二の高岡、一の長岡、都合三峠(三本木泊)を越第五時三本木旅宿へ着、当所町並宜しからず、旅亭も太値ならず、

箱館奉行付添いたし筋も面会を申し入れ面会を申し入面会に付同様に振合い願度段

P8311084 left

より駒場までの間山岳躰たとして陟(のぼ)りては降りすれば登る陟降実に暇あらず駒場野立途中に志和郡大庄屋出迎へ付添、此れを越、第五時

(三本木泊) 三本木旅宿へ着、郡方役人来り着賀申演(のべ)

引取、太左衛門より今朝、清作申聞は回報の儀、書面を以て申し来る回報申遣す、返済降の儀を申入れの代官□屋□来たり面す○自適、清流乱岳日相親胸次濯然似解紳勿道尋□□籟垂帶士盟水約自由身○日々風光昼図開昨裁詩句又州裁山の松籟溪流響都落片輿窓裡来○偶待出郭行

\*1:兼言(かねごと)、前もつて言っておいた約束の言葉)

尚この行以降は常用しない漢字(漢詩形式か?)等が非常に多く、解説ができませんので省略します

(内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解説未了の文字です。私の実力ではすぐ解説できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。